

ご存じですか！文化財 大利根地域の「力石」

81



問合せ
生涯学習課
(☎0480・62・1223)



間口479-1 浅間神社
北大桑240-1 八幡神社

神社の境内などに一抱えある楕円形の自然石が置いてあるのを見かけます。その多くは力石です。

力石のルーツは、万葉集に詠まれている石占にさかのぼります。石に願い事を唱えて持ち上げ、その軽重の感触により吉凶を判断します(重軽石)。これが江戸時代には力試しに使われるようになりました。

機械もなく、力仕事が人力に頼らざるを得なかった時代、若者たちは先輩から力石の担ぎ方を教わって体力の増強に励み、その成果を祭りなどのイベントとして互いに競い楽しみました。石の重さは

さまざまでしたが、「いしかつぎ・石ざし」の場合は、20〜70貫の石が用いられました(1貫は約3.75kg)。

大利根地域には、現在、37個の力石が残されています。年代など、不明なものが多い中で、間口地区の浅間神社にある38貫の力石が最古のもので、約300年前の元禄16(1703)年とあります。

また、一番重いものが北大桑の八幡神社にある80貫(約300kg)の力石で、天保9(1838)年に岩槻領蛭田村(現・春日部市)の関根長治郎と長宮村(現・春日部市)の肥田文八の2人が差し上げに成功し、その記念として奉納したと記されています。

力石は郷土の先人が残した文化遺産です。大切に保存していきたいものです。



80貫の力石
(八幡神社)

紹介者 小沼 良市さん(旗井)